

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Includes details for Meri-Life Co., Ltd. in Nemuro City, Hokkaido.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kiho_n=true&JigvosvoCd=0171300072-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for specific non-profit activity legal person K-net.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム里の家大曲は、3ユニットの事業所で19年目を迎えている。札幌に隣接する大曲地区に在り、スーパーや病院、郵便局で賑わうバス通り裏の住宅街に位置し、バス停からも近く暮らしに便利な環境である。町内会の理解と支援の基に毎年開催する「里の家祭り」も、地域住民、利用者家族、系列事業所の参加を得て盛大に行われるなど、地域密着型事業所として着実に基盤を築いている。更に、北広島の介護支援ボランティア制度を活用し、外出行事やレクリエーション、運営推進会議にも参加協力を得ている。地域行事参加は勿論、保育園児の訪問や小学校の福祉学習への招待など、様々な場面で利用者は地域住民と繋がりが、当たり前暮らしを継続している。事業所も、胆振東部地震を経験し大型発電機を備え、地域住民にも還元出来る体制を準備するなど、相互扶助の関係を保っている。管理者は、社会福祉協議会の依頼で小学校体験授業やキャラバンメイト研修で講師を担い、認知症への理解を深める活動に取り組むなど、事業所機能を地域資源として連携を図っている。職員は介護者として研修等で自己研鑽に励み、利用者に寄り添い、何気ない会話からも要望を察し、満足度に繋がるケアに取り組んでいる。重篤な利用者も、ここで看取りたいと言う家族の思いに応じて、医療連携体制の下に、主治医、看護師、職員がワンチームとなり、本人の尊厳に十分配慮した介護を行っている。家族の不安へも真摯に対応し信頼を深めている。元気の源となる食事に関しても、法人全体で食材テストを企画し、メニューの向上に取り組む、季節感、手作り感、彩りを大切に食事を提供し喜ばれるなど、利用者の笑顔を何より大切にする事業所である。

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 8 rows of evaluation items (No. 56-63) regarding service results and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員はホームの理念を理解しながら、日々のケアに当たっている。また定期的に朝の申し送り時に唱和し、理念の共有と確認、それに伴う実践、その後の振り返りも行うよう努めている。	日々の申し送り時に法人理念を唱和し、大切にすべき根幹が職員一人ひとりの中に刻まれ、事業所全体のものとなっている。日頃から理念を達成するために何が必要か話し合い、ユニット毎に目標も掲げ、理念の具現化に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方がボランティアとして外出行事等に参加してくれたり、町内会の行事に参加したりし交流を持っている。ホームのお祭りにも、町内の方が参加されている。	恒例の里の家祭りには地域住民に参加頂き、町内会の焼肉会には利用者も参加している。絵手紙サークルやボランティアの訪問も盛んで、小学校の福祉学習への招待や保育園児の訪問など、事業所は地域に自然に溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は認知症の理解をしながら、日々のケアについて話し合い実践に結び付けている。実践した事は、管理者を通して運営推進会議や地域の方々へ伝えていく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームでの日常の取り組みや入居者様の生活の様子、事故等についての報告を行いながら参加された方の意見を伺い、ケアに活かせる事は取り入れている。	運営推進会議は、利用者、家族、行政職員、町内会役員、知見者等の出席を得て、定期的開催され、事故・ヒヤリハット報告やテーマを絞った活動状況報告を行うと共に、アンケート形式で参加者から意見や感想を求め、改善に努めている。議事録は掲示し、全家族に配布している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が中心となり、北広島サービスネットに参加したり、社協の地域活動の手伝い、運営推進会議に高齢者支援課の方に参加してもらいながら、ホームの取り組みについて伝えていく。	市主催のグループホーム部会や介護サービス連絡協議会に参加し、市の担当者とは協働関係を築き、情報の相互提供や利用者の様々な課題の解決に指導を仰いでいる。また管理者は、社会福祉協議会の依頼でキャラバンメイト研修や小学校体験授業の講師として啓蒙活動に取り組むなど、事業所機能を還元し連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは、職員間で話し合う機会を持ったり、外部の研修に参加したり、内部研修を受けたりしている。外部の研修を受けた後には、内容を他職員にも周知し知識を得る機会としている。立地上、玄関の施錠はしているがグレーな部分として十分理解はしている。	身体拘束廃止に関する指針を整備し、委員会は運営推進会議に位置付けている。職員は、外部・内部研修を受講し、身体に及ぼす弊害や具体的禁止行為について理解を深めている。身体拘束のグレーゾーンについて具体的な事例をあげ、対応を検討しており、玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部研修を受けながら高齢者虐待防止法についての知識や理解はしている。そのような場面に出会った事はないが、見過ごされる事がないように注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修を受けたりしている。ユニット内には保佐人が付いているので、必要に応じて話し合いを持ったりしている。また、今後必要と思われる入居者様も出てくることを想定しながら学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心となり、説明等を行っている。不安や疑問点などについても管理者やリーダー以外の現場職員に伝えて頂けるようにし理解や納得を得られるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様が意見や要望を言いやすいような関係作りに努めている。職員に話しづらい事は管理者に伝えてもらう事で意見を反映させている。	訪問時や運営推進会議でのアンケート、介護計画作成時などで情報の交換を行い乍ら、家族の希望、要望を汲み取り、改善に努めている。遠方の家族には、メールで報告している。日々の様子は毎月発行の里の家便りで伝えている。利用者の思いを伝える場として、運営推進会議への参加を促している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、管理者を通し合同会議等の場で伝えられている。ホームの設備的なことや業務内容のことなど可能なことは反映されている。	職員同士のコミュニケーションは良好で、朝・夕の申し送り時や業務中でも情報の共有が図られている。毎月のユニット会議で職員の要望や希望等を聞き取り、管理者は本社の合同会議に提案し、実際に業務車の入れ替えや発電機の購入など、就業環境の整備に努め働く意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況の把握に努め、職場環境を少しでも良くしようと努力している。また、無駄な残業をしない工夫や給与水準の反映などやりがいに繋がるような取り組みに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部研修を受ける機会を作り知識を広められるような機会は設けられている。実際、働きながら介護福祉士や介護支援専門員の資格を取る職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や北広島サービスネットでの研修に参加する機会はあり、地域のネットワークづくりや勉強会、管理者が運営推進会議に参加し他ホームとの相互訪問等の活動をしながら、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に管理者や職員と面談の機会を持ち、困っている事、不安な事、要望等を伺っている。安心してホームでの生活を送れるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様の困っている事、不安な事、要望等を伺っている。ホームで出来る限りの対応についてお話ししながら、安心して生活を始められるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に伺った事を基に、入居後に必要な支援を見極めながら都度、柔軟に対応出来るよう職員間で周知しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様それぞれの出来る事を職員は周知し、介護される一方の立場にならないよう出来る事への支援や働きかけをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日々の様子をこまめに報告しながら、ご家族様の協力を得られるように働きかけをしている。一緒に過ごす時間を持つように、行事参加への働きかけも行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もご家族様や親類の面会、友人の面会があったり、法事等で自宅へ帰られたりされている。また昔の職場仲間の方も気軽に面会に来られる配慮をするなど繋がりを大切にしている。	同じ信仰を持つ友人や以前の職場の仲間たちの訪問を受けている。職員は利用者の要望をどの様にも実現できるかを考え、家族と協力しながら、墓参りや帰省、馴染みの病院受診など、共に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブルで過ごされている方同士、会話が難しくてもジェスチャーを交えたりしながらコミュニケーションを持たれている。入居者様同士で楽しそうな笑い声も聞かれている。		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、入所されている所へ顔を見に行ったり、ご家族様から近況を知らせるハガキが届いたりする事がある。必要に応じ相談や支援を行う事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様それぞれに合った過ごし方の支援をしている。希望を伝える方には、可能な限り対応している。困難な場合は、ご本人が笑顔で過せるような対応をしている。	利用者との会話を大切に意向の把握に努めているが、言葉に出来ない時は、手や肩を摩り乍ら、親近感や一体感を共有し合う中で、思いの汲み取りに努め、職員間で共有し、実現に向けた支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴や暮らし方、生活環境について把握するようにしている。不明な点については、ご家族様やご本人に伺いながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方は把握し対応している。体調観察にも努め、その時に必要な過ごし方が出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとに介護計画の見直しを行っている。ご家族様からの要望等も伺いながら作成している。ほか、毎月のユニット会議でも、入居者様一人ひとりの様子を確認しながら、適切な支援を行えるようにしている。	利用者、家族の暮らし方の希望や要望を基に、担当職員が中心となってモニタリングを行い、介護記録を参考に職員間で検討し、状況に即した介護計画を作成している。3か月毎に見直しを図り、状況変化時には、その都度見直しをかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、日々の様子やケアの実践・結果の記録や、いつもと違う様子等を記入している。職員間で情報の共有が出来るよう、日誌に記入したり会議で報告や確認をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と外出の際には気を付ける事を伝えたり介助を見て頂いたりしている。一緒に食事を摂る機会として、食事会の行事を行いご家族様の参加を促している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の焼肉パーティーに参加したり、保育園児や小学生との交流を持ったりしている。ボランティアの方とも顔なじみの関係が出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご家族様の状況、意向を踏まえ納得のいく形で決めている。一方の意向に偏らず適切な医療を受けられるよう良い関係を築いている。	本人、家族が希望する医療機関への受診が可能であるが、殆どの利用者は24時間対応の協力病院から月2回の往診を受けている。皮膚科、歯科も往診可能である。馴染みのかかりつけ医への受診は家族と職員で対応している。医療関係者と訪問看護師は連携を図り、健康管理に当たっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護時には、職員が気になっている事を看護師に質問したり相談をしている。看護師より助言をもらったり、受診に結び付けたり訪診時に対応してもらったりと支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	入院した際には、安心して治療できるような対応に努めている。早期退院が可能な場合は、ご家族様や病院関係者と話し合いを持ちながら、ホームで出来ることを伝え退院後も安心してできるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームで出来る事を説明しているが、イザそのときにならないとご家族様も具体的なイメージが難しい。そのため重度化してきた時や年齢的に終末期を意識してきた時に再度話し合う場を設けている。	入居時に重度化した場合の指針の同意書を得ている。重度化した際には、家族、主治医、事業所と話し合い、終末期の意向を確認し、看取りの同意書を作成している。医師の指示の下、訪問看護師、職員がチームとなり、看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いつ、何が起きるか分からないと考えながら業務に当たっている。急変時や事故発生時にどのような対応が必要か、話し合いを持ったりシミュレーションしながら実践力を身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防や防災コンサルタントを交えた避難訓練や、自主訓練を行っている。火災や地震等の災害時に必要な行動を身に付けている。避難訓練には、地域の方も参加し協力体制を築いている。	最新のハザードマップを確認し、地震など自然災害への準備も行っている。飲食料等の備蓄や発電機を備え、停電対策も行っている。火災訓練は消防署指導の下、地域住民の参加を得て、昼・夜想定で年2回行い、自主訓練も重ねている。	胆振東部地震を経験し、防災の意識を更に高めているが、想定外の災害が発生しているので、あらゆる自然災害に対応した訓練の継続を期待する。更に、夜間帯においては、日中より職員が少なく、より一層の強化が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	デリケートな部分は他者に聞こえないよう配慮し人格を尊重するように対応している。耳が遠い方には耳元で声掛けたり非言語を活用するなど工夫している。	利用者の人格や誇りを傷つけない様に、職員は優しい穏やかな言葉かけや接遇に努めている。職員間の情報交換時には、他者に気づかれない様、隠語を工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉かけや、理解しやすい聞き方をしながら自己決定できるように働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで塗り絵やパズルをしたり、テレビを観たり本を読んだり会話を楽しんだりしながら過ごしている。可能な限り希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の時には普段よりおしゃれな服装をしている。起床時には寝癖を直したり、着ている服に食べこぼし等の汚れがないか確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきを手伝ってもらったり、テーブル拭きや食器拭きのお手伝いをお願いしている。それぞれの嗜好を食事で提供したり、目で見て楽しくなるような盛り付けを提供できるよう努めている。	献立はユニット毎に、利用者の嗜好を考慮し乍ら作成している。利用者の食欲に繋がる様に、法人全体で食材テストを企画し、彩りやメニューの向上に取り組んでいる。誕生日食、行事の祝膳では手作りケーキやデザートも工夫し、外食も取り入れるなど、豊かな食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ない方には、食事以外でご本人の好まれる物を提供し栄養を摂っている。必要に応じ介助をする事もある。水分も好まれる物を提供しながら水分量が不足しないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの働きかけをしている。必要に応じて、磨き残しを介助したり、マウスウォッシュを使用しながら汚れや臭いが生じないようにケアしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にトイレでの排泄を促している。自ら訴えがけない方には、排泄表を利用し時間をみて誘導している。また、職員間の情報共有の際、周りに知られないよう隠語を使って対応している。	出来るだけトイレで排泄する習慣が継続出来る様に、利用者の身体状況に合わせた二人介助、声掛け、誘導を行い支援しているが、夜間のみポータブルトイレ使用やベット上でのオムツ交換など、本人の負担軽減や睡眠状態に配慮し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方も多いため、野菜類を多く取り入れた食事の提供や、水分摂取に気を付けている。毎日、体操参加の促しも行っており便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り毎日、午前・午後と入浴の時間を作っている。また、拒否される場合も多いのでそれぞれのタイミングに合わせ、例えば午前がダメなら午後に再度声掛けてみるなど対応している。	週2回の入浴を基本とし、利用者の希望に合わせて柔軟に対応している。柚子湯に浸かり季節を感じたり、職員との二人だけの会話も楽しんでいる。重度の利用者には二人介助支援やシャワー浴、足浴、清拭など、安全と衛生保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日に眠れていなかった時や傾眠がみられた時には静養の促しをしている。夜間も気持ちよく眠れるよう、枕の位置や高さに気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬についての目的や副作用、用法や用量の理解に努めている。不明な点は薬剤師の方に聞いたりしている。服薬後の様子についても観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯ものたたみ、野菜の皮むき等のお手伝いや、縫物をお願いしたり、音楽を聴きながら歌ったりし役割や楽しみごとの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	『天気が良いから外に行きたい』と希望があれば、可能な限り対応している。また、外出行事等はできる限り要望を引き出し希望に沿ったものが実現できるよう努めている。また、介護支援ボランティアの協力も得て安全面に十分配慮している。	天気の良い日はウッドデッキでのティータイムや散歩、畑作業で外気浴を楽しんでいる。外出行事の花見や紅葉狩りには家族やボランティアも参加して、季節の節目を皆で感じている。外食や買物、墓参りなども、家族と協力し、個別対応で要望に応じている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じて、お買い物の支援を行っている。行事として買い物に行き、自分で見て選んで購入する事もある。また、欲しい物を頼まれ購入する事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出す事はあまりないが、ハガキがきたり電話がきて話をされている。また、携帯電話を持っている方もいるので、必要に応じご自身で連絡されている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、温度や湿度に気を付けたりと配慮している。ホール内の壁には、季節を感じられるように、季節ごとに飾りを変えたり、行事の写真を張ったりして居心地よく過ごしてもらえるように工夫している。	1階に2ユニット、2階に1ユニットの3ユニット体制で、各ユニットの広さや造りは異なり、それぞれに職員の個性や工夫が窺える季節の飾りつけが成されおり、温かみを感じられる空間となっている。各ユニット共に、温・湿度に配慮し、清潔を保ち、誰もが寛げる楽しい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には、皆で過せる食堂テーブルやソファを置いている。食堂席で楽しそうにお話をされたり、窓辺のソファに座り入居者同士でお話を楽しまれたりしている姿も見られている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から持ってきた家具類を置いている方や、使いやすいテーブルを置いている方、ご家族様が座るソファ等それぞれが過ごしやすい工夫をしている。	ゆったりとした広めの居室に押し入れが設置され、衣類や物品などが整理収納されている。馴染みの家具や調度品、仏壇などが持ち込まれ、趣味の作品や写真が飾られ、個性に配慮し、安心して過ごせる環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの特性を見極め個々が分かりやすい表札や浴室など分かりやすく表示している。また、ホール内には手すりがあり、一人でも安定した歩行ができるよう使用を促すなど対応している。		